



e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
日本語放送
メールマガジン
(第60号)

2008年3月27日発行

短波の魅力ー遠い国からの電波をキャッチ

大武 逞伯 (日本短波クラブ会員 会員番号107番)

アメリカのペンシルバニア州でひらかれた「Winter SWL Festival」に出席された大武逞伯さんにシカゴ郊外の我家に来ていただきました。ホーム地下スタジオでの対談の一部を紹介させていただきます。

シカゴは残雪、日本では梅が満開とか、大武さんのご出身は？

その梅で有名な借樂園のある茨城県の水戸で育ちました。バンカラで知られる水戸一高にすすみ、高校時代の私は学問ひとすじでした。大学での卒論には当時では珍しい「ミリ波帯の導波システム」をやりました。



電子工学をめざしたきっかけは？

それはやはり短波でした。高校生のときに世界中の放送が短波で聞けることがわかって、それにのめり込みました。私が日本短波クラブに入会したのは、創立1年目、当時会誌は英語だけでした。それを英語と日本語の二本立てにしたら会員数が急激に増え、創立4年目で一挙に1000名にもなり、1970年後半にはBCL(海外受信)ブームにあやかって年に2000人も会員が増えた年もありました。

まさか短波がブームになるとは？

だれも予想しなかったでしょう。高校時代には市販で買えるラジオがなく自分で鉱石ラジオを組み立てることから入り、そこから真空管をつかって検波、増幅するゼロVワン、それから高周波付のワンVワン、さらには混信をさけて歯切れのいいチューニングができるスーパー受信機へとすすんでいきました。BCLブームのおかげで数多の受信機が大々的に売り出され、子供たちも自分の小遣いや親にねだれば短波がきける受信機が手に入るようになりました。実際、若い時に海外へ目を向けるというのは非常に大事なことであり、生きた英語の勉強にもなりました。当時のリスナーたちはすでに年齢的には40代になって国内外で社会の中堅として巾広く活躍しています。

アメリカとヨーロッパの国際会議について

アメリカでの「Winter SWL Festival」は例年3月第2週に同じ開催地(ペンシルバニア州カルプスビル)で開かれます。ここは私が以前3年間住んでいたところに近いので懐かしい人々に会うことができます。ヨーロッパではEDXC(ヨーロッパDX連盟)が各国もちまわりで毎年開催しています。去年はスイス、今年はフィンランドですが、このラジオ・クラブが50周年を迎えるので参加者は多くなるでしょう。北欧3ヶ国はなかなか熱心でアンテナを2キロメートルも張って日本国内の中波放送を聞いている人もいます。

アナログ短波 VS デジタル短波(DRM)について

かなり前から研究開発はすすめられていますが、DRM受信機はまだ高価で、技術的にもデジタル変調の場合は混信問題もあり、なかなか本格的な実用化には至っていません。デジタル化した場合には音質は良くなりますが、そのかわりにDXはなくなります。デジタルは聞こえる時は非常にクリアーですが、あるレベルから信号がさがるとブツツと聞こえなくなります。いわゆる聞こえるか聞こえないかがデジタル。一方、DXは遠距離からの電波をなんとかして挑戦するわけですから、そこが根本的に違います。

では今後の短波受信は？

21世紀は目新しいものであふれ、周辺の環境は急速に変化しています。しかし、自分の受信機で遠い国から飛んでくる電波をキャッチする喜びを大事にする人々はなくならないでしょう。HCJB日本語放送がそういう人たちとの「ふれあい」を軸にして放送をつづけておられることは感謝です。どうかこれからも我々リスナーのために楽しい番組を送りとどけてください。

なお、サタデー・トーク(3月29日、4月5日放送予定)で対談が放送されます。

HCJB日本語放送担当

在 尾崎一夫

HCJB日本語放送(オーストラリア送信):

放送日時: 毎週土曜日、日曜日
日本時間 0730 - 0800 (2230 - 2300UTC)
送信周波数: 15525 kHz (19mb)
受信報告書の宛先: 〒169-0073
東京都新宿区百人町1-17-8
淀橋教会HCJB係
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mnz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2008 by HCJB Global. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
